

令和2年1月3日（金）

明けましておめでとうございます。 その5

初夢はいかがでしょうか。センター試験に臨んだときに、直近の課外でやったことがそのまま出てとても驚いた夢なら、それは正夢ですね。

因みに、私の共通一次の苦い経験は、数学のテストが100分で200点満点だったのですが、30分もかからないで、満点を取り、これでは、得意の数学で差がつかないととても悩んだ思い出があります。

注：大学共通第1次学力試験（だいがくきょうつうだいいちじがくりょくしけん）は、1979年1月13・14日から1989年1月14・15日までの11年間11回にわたり、すべての国公立大学および産業医科大学の入学志願者を対象として、全国の各会場で共通の試験問題により一斉に実施された基礎学力試験。一般的な呼称は「共通一次試験」・「共通一次」。実施責任者は、国立大学の共同利用機関であった大学入試センター（現在は独立行政法人）。

共通一次以前は一期校二期校という2区分から1校ずつ受験できたが、共通一次によって国公立大学は1校のみしか受験できないという一発勝負方式が受験地獄を緩和させる（はずの）新機軸として採用された。

当初、試験問題となる5教科にはそれぞれ200点満点が与えられ、詳細な科目は以下の通りであった。

国語（100分）

該当履修科目は現代国語、古典I甲の2つ。評論、随筆または解説文、小説、古文、漢文の全5問

数学（100分）

数学I、数学一般のいずれか1科目

社会（120分）

倫理・社会、政治・経済、日本史、世界史、地理A、地理Bのいずれか2科目、ただし地理科目2つの選択は不可

理科（120分）

物理I、化学I、生物I、地学Iのいずれか2科目、または基礎理科のみ1科目  
外国語（100分）

英語B、ドイツ語、フランス語、英語Aのいずれか1科目

大多数の受験者は社会・理科をそれぞれ試験会場で2科目選択して受験した。いわゆる「5教科7科目」（「国語」は「国語」全体で1科目）で1000点満点であった。

受験後、大学入試センターが正解を公表し、受験生が共通一次試験の結果を自己採点をして把握できるようにした。